

平成26年度

東京都教育委員会言語能力向上拠点校

< 研究主題 >

伝え合い、学びを創造する授業づくり

～自信をもって、友達と協同して学び続ける子どもの育成～



目指す児童像

<低学年>

- ・本文を読み、自分の経験と結びつけて考えをもつ子
- ・友達のよいと思った考えを取り入れて、自分の言葉で話す子
- ・伝え合いを通して、相手の考えを受け止める子

<中学年>

- ・本文を読み、友達との違いに気づきながら、自分の考えを明確にもつ子
- ・友達の考えを受け止め、考えの違いに気を付けながら聞き、自分の考えを話す子
- ・伝え合うよさを味わい、主体的に学ぶ子

<高学年>

- ・本文を根拠に、自分の考えを具体的に持つ子
- ・友達の考えを受け止めた上で、お互いの考えを伝え合う子
- ・伝え合いを通して、自分の考えが広がったり、深まったりするよさに気づき、主体的に伝え合う子

平成27年2月

杉並区立高井戸東小学校

言語能力向上拠点校としての取り組み

知のトライアスロン

トライアスロンの3種目として取り組むもの

暗唱・辞書引き・読書（各学期1か月半程度実施）



新しい言葉に触れることで言語への興味を高め、言語能力の向上を図った。3種目それぞれに達成目標が設定されており、3種目とも目標を達成できた児童が、「**知の鉄人**」となる。「知の鉄人」になった児童は、給食中の昼の放送で名前を紹介し、全校朝会で表彰した。校長室前に名前を掲示したり賞状とシールを渡したりして、次の学期への意欲につながるようにした。

暗唱 杉並区作成の名文・名句が載せられた「言葉の教育」や教科書の文章を題材として暗唱に取り組む。

言葉の教育は、週に一度、朝学習で取り組む時間が設定されている。日常的に美しい日本語に触れ、音読を繰り返すことで、諳んじて言えるようにしている。

「知のトライアスロン」に取り組む期間中には、担任・専科担当の教師・学級の友達・家族など、多くの人に暗唱を聞いてもらい、児童の意欲が高まり、自信につながった。

辞書引き 意味の分からない言葉や興味のある言葉を調べ、自分の辞書に調べた言葉を書いた付せん紙を貼る。

辞書引きは、年間を通して取り組んでいるが、「知のトライアスロン」では、期間内に各学年で決められた数を調べるように取り組んだ。このことで児童の語彙を増やしたり言葉への関心を高めたりすることにつながった。

読書 読書の習慣を付け、読書量を増やしていくことをねらいとして行う。

各学年で期間内に読む冊数を決めて取り組んだ。読む力に個人差が大きいという実態を考慮し、本は絵本からページ数の多い物語等までを選択できるようにした。

読 書

ひがしっ子リスト

学年に合わせて必読書を選定し、「ひがしっ子リスト」を作成した。一人一冊の読書ファイルを用意し、このリストと読書記録を付けた。本を選ばなかった児童が、リストを手掛かりに本を選べるようになり、読書の質に変化が見られつつある。友達と本の話をするようになり、本を日常の中に位置付ける姿が見られるようになった。

ぐんぐん読書

本を読んだ感想を友達と交流することで、読書の楽しさを味わわせ、主体的に読書しようとする児童を育てることをねらいとして、各学期に1回取り組んだ。

1学期は、友達と「おすすめ紹介カード」を紹介し合った。

2学期は、ゲストティーチャーを招いてポップを作った。



3学期は、読書会を実施予定。



保護者・地域の方のご協力

学校司書や学校支援本部と連携し、保護者・地域の方々の協力を得て、豊かな読書環境の整備を進めている。

- ①図書館の環境作り
- ②本の修理、読書ファイルの作成
- ③保護者の定期的な読み聞かせ
- ④学期の学級文庫の選定 等